

ビジネスモデル展開へ

第29回中小企業優秀新技術・新製品賞

受賞企業座談会

りそな中小企業振興財団と日刊工業新聞社共催の「第29回中小企業優秀新技術・新製品賞」授賞式が4月18日に東京・飯田橋のホテルグランドパレスで行われた。同賞は中小企業の技術振興を図り、日本の産業発展に寄与することを目的に1988年に創設された。今回は一般部門とソフトウェア部門合わせて318件の応募があり、厳正な審査の結果、37件が入賞した。受賞企業5社のトップに今回受賞した技術・製品の特徴、今後の事業展開、経営理念を語ってもらった。

開発のポイント

高精度化へ全社一丸

長瀬氏

空調を「空気環境」に

隈氏

細線で精緻な画像に

澤登氏



長瀬氏

井水 皆さま、このたびは受賞おめでとうございます。最初に会社の紹介と受賞された製品・技術の概略と開発ポイント、苦労された点などについて話させていただきます。それでは中小企業庁長官賞を受賞された長瀬さんからお話をいたします。

長瀬 当社は「創意工夫をモットーに、父が1950年に創業した超精密研削盤メーカーです。80年代初めに、開発の基本を「お客さまの必要とされる物を一台一台丁寧に作る」「世界の物を作る」という方向に転換しました。今回、中小企業庁長官賞をいただいた「超精密成形平面研削盤」は、テーブル運動の直角度精度0.2秒

隈 当社は工場や倉庫などの業務用の特殊な空調機を、自社の技術で開発、設計、製造し、販売しています。創業主である父がオイルショック後、省エネルギーに着目して全熱交換器の開発に着手し、当社独自の技術で心臓部となるハニカム構造の除湿ローターの製造に成功しました。現在は完成品まで手がけています。



澤登氏

澤登 当社は創業122年目を迎えます。新聞印刷用インキからスタートし、現在は工業用のスクリーン印刷用インキを製造販売も苦しい点です。インキは温度や湿度など使用する環境の変化で仕上がりが変わるため、「お客さまの現場でお客さまともに寝る間も惜しんで調整した」など苦労ですが楽しい経験もありました。井水 いかにも製品の特徴を簡潔に伝えるか、ネーミングも大事だということですね。

出席者	
ナガセインテグレックス社長	長瀬 幸泰氏
西部技研社長	隈 扶三郎氏
帝国インキ製造社長	澤登 信成氏
日冷工業取締役	志田 浩二氏
湯山製作所社長	湯山 裕之氏
《司会》	井水 治博
日刊工業新聞社社長	

請負脱却へ産学連携

志田氏

志田 当社は1958年、現社長の父が冷凍サイクルのメンテナンス事業を軸に創業しました。その後、需要の変化とともに配管の加工を始めました。家電メーカーの海外生産が加速する中で、請負業からの脱却を目指し、経済産業省の助成制度を活用して自社製品の開発に取り組み始めました。

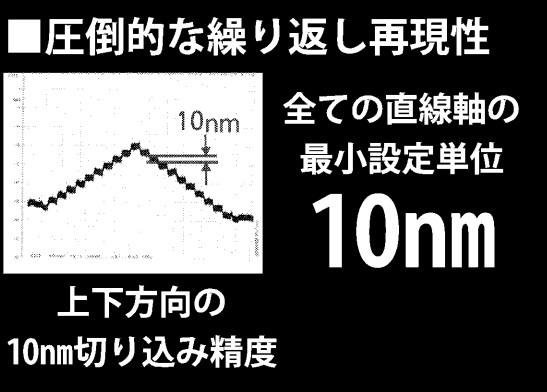
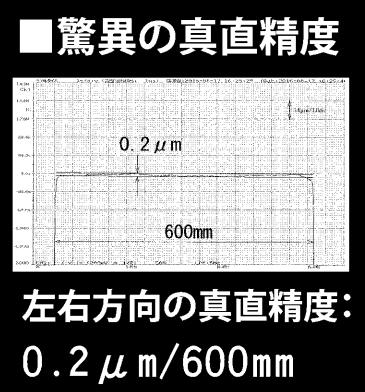


志田氏

志田 当社は1964年に父が創業しました。きっかけは、ある病院で診察を受けたときに、院長夫人が粉薬を調べて1回分ずつ手配していたのを見て、調査・分包を自動化できないうのだからと思いついたからと聞いています。今回、優秀賞をいただいた「散薬調剤ロボット」は、粉薬を全自動で分包する機械です。一つの機械の中に最大30種類の粉薬の容器を収納し、処方箋のデータに従って、それぞれの容器から自動的に薬を払い出して分包する作業を全て自動化できました。重量についても電子てんびんで三重にチェックしながら分包するようにしています。また画像技術を使って、例えば、分包が終わった後に薬が残っていないかを確認し、画像として証拠を残し、後からチェックできるような仕組みも取り入れています。井水 信頼を第一に考えているようなチェック機能を付けているんですね。

驚異の超精密率

史上最強のナノ成形研削盤



第29回 中小企業優秀新技術・新製品賞
中小企業庁長官賞受賞

皆様の御厚情に心から御礼申し上げます。

